事例No.	1337
公表年度	H30
団体の属性	都道府県
団体名	福井県

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・移住定住

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

福井とつながる都市人材しあわせプロジェクト

出典

平成30年度「「関係人口」創出事業」モデル事業調査報告書

24. 福井県　福井とつながる都市人材しあわせプロジェクト（事業パターン（２））

24.1 地域の特徴と事業のねらい

(1) **地域の特徴**

福井県は、子育て環境の良さや教育水準の高さ、ものづくり産業に支えられた安定した雇用・経済環境などから、「幸福度日本一」と評価される暮らしやすい地域である。一方、大学進学等を機に多くの若者が流出するなど、将来にわたって地域活力を維持していくことが課題となっている。

また、三大都市圏から２～３時間でアクセスできる日本海側エリアであり、人やモノ、情報が行き来する中継地域である。製造業が県内の雇用と付加価値の約４分の１を支え、国内シェアの９割以上を占める眼鏡産業や合繊織物を中心とする繊維産業など、高い技術をもつ地場産業が集積する。

(2) **事業の狙い**

1）解決したい地域課題

福井県では、年間２千人程度の人口流出が続く中、人口減少社会における地域活力の維持、地域の担い手を地域外から確保する必要がある。

2）地域課題を将来どのようにしたいか（アウトカム）

県内全市町において、地域の担い手として都市人材を活用する共動の仕組みづくりを、県が先導して構築することで、県内の地域づくり活動や地域ビジネス等に参加する都市人材および都市企業等によるネットワーク構築を図る。

3）前述の地域課題を今年どのようにしたいか（アウトプット）

４市町において、都市在住の企業人材や個人事業者など、地域づくり活動等への参加を通じて、福井を外から応援する気持ちをもつ都市人材を、地域の新たな担い手として活用する共動活動のモデル事例をつくる。

福井市：まちなか地区におけるリノベーションの事業化件数　3 件

鯖江市：企業訪問ツアーに参加する都市部在住の若手社会人や大学生　30 名

美浜町：地域資源を活用した創作活動や商品開発の件数　2 件（継続中のものを含む）

若狭町：地域資源の活用方法や参加者の将来プラン等の提案件数　2 件

24.2 事業内容

(1) **関係人口を募る仕組み**

1）募集広報、参加者マッチング

ＣＳＶ開発機構の会員企業が提供する情報サイト「ＹＯＩＴＯＫＯ」や、ＣＳＶ開発機構の会員企業・関係団体のメーリングサービス（10 万件以上）、リスティング広告等を活用し、4 市町の地域プロジェクトの内容や募集情報等を発信。4 市町が求める都市人材を募集した。

４市町の各プロジェクトへ、各３名以上の参加者確保を目標に取組、合計 13 名の参加者を確保した。参加者について、頻繁に現地を訪問する事業があるため、福井県と比較的近い関西を関係人口誘致のターゲットエリアと想定し、福井県大阪事務所や関係団体を通じた告知を行った結果、参加者 13 名のうち、フリーランサー8 名、関西在住者が 4 名となった。福井県が東京・大阪で開催した関係人口のセミナーのうち、東京会場の参加者からは、謝礼・交通費不支給等の募集条件に関する批判的な意見も出されることもあり、参加者の属性を見極める必要もある。

(2) **設定した地域課題**

1）ディスカバリー福井 2018

福井市においては、平成 35 年春の北陸新幹線福井開業に合わせ、中心市街地で複数の再開発計画が進行し、まちづくりの大きな変革期を迎えている。一方、再開発区域以外では不動産所有者の高齢化や職住分離などのため、43 件の空き店舗が長期間放置され、老朽化が著しい新栄商店街のリニューアルが求められている。

こうした中、福井市内ではリノベーションによるまちづくりが活発になりつつあり、地域にはなかった新たな視点でのビジネス展開が周辺エリアの価値向上に寄与している。新幹線開業に向け、駅前の再開発エリアと既存ストックを活用するリノベーションエリアの共存により、他市にない福井の魅力を創出することが課題であり、まちなか地区におけるリノベーションの事業化を担う人材を発掘・育成していく必要がある。

2）鯖江"育職住"プロジェクト

鯖江市は 1955 年の市制施行以来、人口増を実現している。しかし、有効求人倍率が高止まりする中、地場産業の中小・零細企業を中心に若手人材の確保が課題であり、都市部在住の若手社会人や大学生等に向け、鯖江の魅力発信を強化していく必要がある。

3）クリエイターｉｎレジデンス

美浜町は、海・山・川・湖の豊かな自然と食材に恵まれた地域であり、「へしこ」に代表される「発酵熟成文化」を全国に向けブランド発信することにより、農林水産物の高付加価値化を進めている。また、里山里海湖の地域資源を地域への交流人口拡大につなげるため、民間事業者との共動により空き家を活用した滞在施設を整備し、都市部の中高年層をターゲットとした中長期滞在の誘致を進めている。

一方、人口減少に伴う空き家の増加等もあり、海水浴客に依存しない滞在型・通年観光への転換と空き家の有効活用による地域活力の維持が課題である。発信力の強いクリエイターとの共同により、地域資源のブランド力を高めていく必要がある。

4）若狭ソーシャルビジネスカレッジ

若狭町は農業や、民宿業と兼業した漁業が中心的な地域産業となっているが、農業就業者は、平成 17 年の 922 人から平成 27 年の 724 人へと 10 年間に 198 人が減少し、漁業就業者も同時期に 67 人から 57 人へと減少している。また、民宿の軒数も、平成 19 年 112 軒から平成 29 年 84 軒へと 28 軒（25%）減少するなど、人口減少と少子高齢化が進む中、地域社会・経済の活力維持が大きな課題である。人口減少と少子高齢化が進む中、農業や漁業、民宿など地域の基幹産業の衰退が課題。地域資源を活用した新たな里山里海湖ビジネスを創出していく必要がある。

(3) **地域課題に関する講座の実施内容**

1）地域課題に関する講座（福井とつながるセミナー）

地域プロジェクトへの参加に先立ち、東京、大阪の２会場において、福井の魅力や地域振興策、課題等を学ぶ講座を開催した。地域プロジェクトの成果報告を兼ねた２回目の講座を開催することにより、継続的な関係性の強化と新たな関係人口の掘り起しを図った。

県が先導して、市町の情報をまとめて発信することにより、各市町の県外での知名度不足というハンディキャップを補うことができた。また、4 市町の地域特性やプロジェクト内容が多様であったため、具体的な活動イメージをもたずにセミナーに参加した人等、幅広い人にアプローチすることができた。

（開催概要）

・第１回福井とつながるセミナー

東京会場（6/24 参加 38 名）、大阪会場（6/23 参加 15 名）

・第２回福井とつながるセミナー（県の単独事業として追加開催）

東京会場（11/3 参加 54 名）、大阪会場（11/18 参加 14 名）

2）ディスカバリー福井 2018

リノベーションまちづくりの担い手を発掘・育成するため、空き店舗の調査、空き店舗を活用した事業計画の策定、実現化のための事業構築等を行う実践型ワークショップ「ディスカバリー福井 2018」を実施した。受講生 15 名と、地元大学生等が３つのテーマに分かれて事業計画を検討した。関係人口を各グループに投入することにより、外部の発想が加わり、ワークショップでの議論を深めることができた。

（実施概要）

・7/28～7/29 キックオフイベント、まち歩きリサーチの実施

・9/1～9/2 講義、まち歩きリサーチ

・10/6～10/7 講義、エリア調査、グループワーク

・11/3～11/4 講義、グループワーク

・11/24～11/25 グループワーク

・12/8～12/9 成果報告会、シンポジウム開催（３件の事業案提案）

3）鯖江"育職住"プロジェクト

「さばえの仕事図鑑」作成および"育職住"ツアー実施に向けた企画会議および地場産業等の視察調査を実施した。ツアーでは、鯖江市内のものづくり企業に対するヒアリング調査や伝統工芸産地の視察調査や鯖江市長との意見交換を行った。

また、実際に鯖江市内の漆器職人や起業家にヒアリングすることで、都市人材が鯖江市や地域で活動する上での気付きになった。しかし、ツアー参加者は地域課題への理解を深めることができたが、何をどこまでするのか（できるのか）という部分での意見集約ができておらず、自治体側、関係人口側に多少の戸惑いが見受けられた。

「さばえの仕事図鑑」は、平均約 40 件/日のアクセスがあり、ツアー参加のうち 3 名の移住や就職相談につながるなど、大都市圏在住の大学生や若手社会人に鯖江市の住み良さや働きやすさを伝えることができた。

（開催概要）

・8/27 “育職住”ツアー（会場：鯖江市うるしの里会館）

4）クリエイターｉｎレジデンス

協働実践活動の実施に先立ち、美浜町および受託事業者から事業の詳細や美浜町の課題、地域振興策等を説明したが、美浜町の地域資源（食文化、観光地、等）の見学を実施し、より美浜町への理解を深めると良い。

（開催概要）

・7/17～7/19（会場：美浜町役場）

5）若狭ソーシャルビジネスカレッジ

地方生活に興味を抱く都市人材等を対象に、地域住民とともに、フィールドワークやワークショップを通じて地域の課題や魅力を調査・分析し、新たな地域の生業を生み出す学びの場として「若狭ソーシャルビジネスカレッジ」を実施した。地域内外から、年齢もバックグラウンドも多様な参加者が集ったことで、ワークショップでの議論を深めることができた。

（開催概要）

・7/7～7/8　フィールドワーク、ワークショップ

地域調査の手法である「地元学」を学び、地域住民とともに、海、里、湖の暮らし調査を実施。集落の歴史を知り、共通点や現在との違いについて話し合い

・9/1～9/2　フィールドワーク、ワークショップ

自然を活用したビジネスのひとつとして、カヤックやサイクリングツアーを体験し、ツアーの仕組みや料金設定等、ビジネス化の考え方を学ぶ

・10/6～10/7　インタビュー調査、ワークショップ

ライフヒストリーを聞き、書き起こしていく「聞き書き」の手法を学んだ。さらにグループに分かれ、３名の地元の高齢者を対象に「聞き書き」を実践

・11/3～11/4　インタビュー調査、ワークショップ

地元出身で、地元で活躍する若い世代に、企業や会社経営、志や展望、課題等をヒアリング調査

・12/1～12/2　講義、ワークショップ（講師：塩見直紀氏）

自分の興味関心を掘り起こす「自分資源の発掘」、地域でのビジネスの可能性を考える「地域資源の発掘」というテーマでワークショップを実施

(4) **協働実践活動の実施内容**

1）ディスカバリー福井２０１８

リノベーションまちづくりの担い手を発掘・育成するため、空き店舗の調査、空き店舗を活用した事業計画の策定、実現化のための事業構築等を行う実践型ワークショップ「ディスカバリー福井 2018」を実施した。学生とクリエイターの活動拠点となる元ドレス学校の再生プロジェクト、再開発エリアの歴史を伝える「おくりびる」プロジェクト、自主製作映画のシナリオに沿った商店街のエリアリノベーションに関する３件の事業プランを提案した。

（実施概要）

・7/28～7/29　キックオフイベント、まち歩きリサーチの実施

・9/1～9/2　講義、まち歩きリサーチ
・10/6～10/7　講義、エリア調査、グループワーク
・11/3～11/4　講義、グループワーク
・11/24～11/25　グループワーク

2）【鯖江"育職住"プロジェクト

ものづくり企業の高い技術力や魅力などを取材し、Ｗｅｂサイト「さばえの仕事図鑑」を作成。さらに同サイトを活用し、子育て（育）、仕事（職）、暮らし（住）をキーワードに、鯖江の暮らしや仕事を体感するバスツアーを実施した。市内にある事業所に対し、仕事の内容や企業の経営理念、社員インタビュー等その他多角的に企業の魅力を掘り起こすリサーチおよび取材を行い、Web サイト「さばえの仕事図鑑」を開設した。経営者の声や仕事の紹介部分を web にまとめ発信することにより、市内事業所の魅力を伝えることができた。また、取材先の企業を中心に、関西および中京都市圏の大学生や若手社会人を対象とした企業訪問ツアーを開催した。企業訪問ツアーには、都市住民が 2 回合計で 37 名が参加し、鯖江市の職場を知ることにより、鯖江で育てる、働く、暮らすイメージの形成につなげた。

3）クリエイターｉｎレジデンス

空き家等を活用した施設を地方での拠点として創作活動を行うクリエイター等を誘致し、地域資源や伝統・文化等を活かした商品開発、創作活動、美浜町のＰＲ等を実施した。多拠点活動を実施するクリエイター（都市人材）１名を選定し、商品開発等に協力する案件調査のため、町内の事業者等への訪問ヒアリングを実施した。クリエイターの定期的な来県が困難であったことから、商品開発の提案はしたものの、実現には至らなかった。

ただし、参加者本人の多拠点活動に加え、県内にスタッフを新たに配置するなど、企業ぐるみの取組に展開していく可能性が生まれた。

（実施概要）
・7/17～7/19　メンター等との打合せ
・8/14　　企業等とのマッチング

4）若狭ソーシャルビジネスカレッジ

地方生活に興味を抱く都市人材等を対象に、地域住民とともに、フィールドワークやワークショップを通じて地域の課題や魅力を調査・分析し、新たな地域の生業を生み出す学びの場として「若狭ソーシャルビジネスカレッジ」を実施した。元民宿を活用したコミュニティＦＭ局の開業や集落体操クラブの実施、瞑想ツーリズムの実施、agriculture×surf 文化をコンセプトとしたモノ・コトづくりなど、2 名の参加者が４件の事業プランを提案した。今後、若狭町により、事業化に向けた伴走型の支援を行う予定である。

（開催概要）
・7/7～7/8　フィールドワーク、ワークショップ

地域調査の手法である「地元学」を学び、地域住民とともに、海、里、湖の暮らし調査を実施。集落の歴史を知り、共通点や現在との違いについて話し合い

・9/1～9/2　フィールドワーク、ワークショップ

自然を活用したビジネスのひとつとして、カヤックやサイクリングツアーを体験し、ツアーの仕組みや料金

設定等、ビジネス化の考え方を学ぶ

・10/6～10/7　インタビュー調査、ワークショップ

ライフヒストリーを聞き、書き起こしていく「聞き書き」の手法を学んだ。さらにグループに分かれ、3 名の地元の高齢者を対象に「聞き書き」を実践

・11/3～11/4　インタビュー調査、ワークショップ

地元出身で、地元で活躍する若い世代に、企業や会社経営、志や展望、課題等をヒアリング調査

・12/1～12/2　講義、ワークショップ（講師：塩見直紀氏）

自分の興味関心を掘り起こす「自分資源の発掘」、地域でのビジネスの可能性を考える「地域資源の発掘」というテーマでワークショップを実施

24.3 成果分析

(1) 地域課題の設定と課題解決に向けた関係人口の関与

4 市町では、都市人材を地域づくり活動の新たな担い手として、都市人材のスキルを活かした、都市人材と地域との共創による事業創出を目的とした取組を実施した。当事業の参加者アンケートによると、参加した都市人材 13 名全員が継続的なプロジェクト参加や地域との交流継続を望んでいることから、ソーシャルビジネスの提案やリノベーション事業計画の策定等、地域にある本当の課題に取り組んだことや、普段関われない地域の人々の生活や仕事に触れたことで、非常に高い満足度を得たものと考えられる。

(2) 事業参加者に対するアンケート等の結果及び分析

地域プロジェクト参加者（13 名）に対するアンケートによると 13 名全員が、継続的なプロジェクト参加や地域との交流継続を望んでおり、うち 4 名は今回の活動成果をベースとして事業化や商品開発をめざす意向を持っている。受け入れ体制に対する満足度は約 8 割に及んでおり、この要因としては、メンターを中心として、関係者とのコミュニケーションは十分にとられていたことが考えられる。

継続的な活動を行う上での課題としては、仕事との両立や交通費・滞在費の負担をあげる意見が多く、交通費への助成や収益を得る仕組みも考慮する必要があると考えられる。

(3) 事業成果に対するふりかえり

福井県では、平成 28 年度から福井県にゆかりのある県外在住の人々とのネットワークづくりに取り組んできた。本事業は、地域づくり活動の新たな担い手として、関係人口の誘致拡大をめざすことを目的に取り組んできた。県が広く参加募集を行い、各市町の特色ある事業にマッチングすることで、その地域で何をしたいかが定まりきらない参加者にとって、地域への関わりの選択肢を増やすことにつながったと考えられる。鯖江市では、都市人材として、企業経営や広告・出版、ツアー企画のスキルを持つ人材をターゲットとて、都市部の大学生や社会人に対して鯖江市の魅力を発信するバスツアーや web からの情報発信を実施した。ツアー参加者 37 名のうち、3 名が移住や就職相談に繋がったという満足度の高さから、ツアー参加者の温度差（単に鯖江を知りたい人、眼鏡に興味がある人、移住定住を考えている人など）を都市人材の視点を生かして、ツアー参加者のニーズに応じたツアーを企画できたものと考えられる。

(4) **今後の取組に向けた課題**

今回、首都圏からの参加者が多く、時間的、金銭的な個人負担が大きい中での事業実施となった。継続的な活動を担保するためには、参加者の負担感を軽減するとともに、東京等で参加者同士が交流できる仕掛けをとっていくことが求められる。

また、地域プロジェクトの企画にあたっては、地域課題や活動内容を限定し過ぎず、参加者自身が自由に活動できるような「関わりしろ」のある事業設計も必要であると考えられる。

県としての、大事にしたいフックが見えづらいのではと感じた。多様であっていいと思うが、福井県としての色をどのように出すのかが必要である。